

第5回 フリートークの会

平成 18 年 8 月 8 日 参加者 6 名

院長 がん患者さんの中には、大きな病院で診てもらっていて、医者からやることはすべてやってしまったからもうこれ以上治療の手立てはないと見放されてしまったような患者さんがたくさんいます。病院経営の観点から治療の難しい患者さんを診続けられないということもあるので、こうした見放されてしまった患者さんの中にもまだまだ助けられる程度の方はいらっしゃると思うので、見放してはいけないと常々考えています。免疫を落とさずに治療する方法（免疫細胞療法）があると言われますが、がん細胞を1つやっつけるのに必要なキラー細胞は20～30個。がん細胞はその1gの中に1億～10億個あるといわれますから、がん細胞を人間の免疫力だけでやっつけようというのは無理、不可能なのです。

また、分子標的薬をメインに使用している病院もあります。抗がん剤は何かと悪者にされているので、これなら大丈夫だろう副作用も少ないということで使用されていますが、心臓に対する毒性があり過剰な反応が出るといった重大な副作用があります。研究段階の薬でもあり、効く人と効かない人がいますので、症例を選んで使用することが大切です。

抗がん剤はうまく使えばダメということはありません。ある抗がん剤を使ってみて効かなくなれば違うものを使ってみる。患者さん一人一人、その人その人に合ったものを使い分けて投与することが大切なのです。

乳房温存手術が流行っていますが、いきなり手術というのではなくて、術前に抗がん剤を使ってがん細胞を小さくしておいてから手術、という方法がよい場合もあります。

乳房温存手術→再発→放射線治療→皮膚に転移、という経過をたどって乳房がザクロのようになって当クリニックに来られた患者さんがいますが、よくなって来ています。しかし中にはタチの悪いものもあり治療法は一律には決められません。

Aさん がん難民という言葉聞いたことがあります。

院長 外来でがんが見つかり即入院となると、病院はすぐ一杯になってしまいます。そこでどうしても新規の患者さん、薬の効きのいい患者さんが優先され、治療が長引いている患者さんを放り出してしまう。しかし放り出された患者さんの半数はよくなる可能性があるのです。放り出された患者さんが変な治療に騙されてメチャクチャにされてしまう。医者は一度がん患者を診たら最後まで面倒を見るべきだと思います。

Bさん 患者側にも問題ありますよね、ドクターショッピングって…。

院長 患者さん自身に医者に対する不信感があるんでしょうね。一番始めにかかったドクターに不信感をいだと次々と医者を変えることになる。しかしドクターショッピングはしないほうがいいですね。よくない。

Cさん 術後2年ほど経っていますが、主治医から抗がん剤を処方されていないんです。他の患者さんは処方されているのに、飲まなくていいのかなと不安になります。主治医に聞く

と、効くか効かないか分からないし必要ない、との返事。大丈夫でしょうか？

副院長 まず自分で治ろうとする気持ちが大切だと思います。医者にすべて何とかしてもらおう、医者の言うことは全て正しい、医者にかかっただけでいさえすれば何とかなる、ということではなく、自分の身体が何をどう望んでいるか、自分の内なる声に耳を傾けてみる、といった方がいいでしょうか、自分がどうしたいかを自分に問いかけてみて答えを出していくということも大切だと思います。

Dさん 私はがんの再発で肺に水がたまって、ドクターからは水を抜くことは出来ないと言われ、同じ頃同じような症状で亡くなった方を知っていたのでホントにもう自分はダメかと思いました。でもふと、そうだスイカが利尿作用があるからスイカを食べてみようと思い立って、スイカを1個の半分食べてみたら、水が抜けちゃったんです。それで治っちゃいました。

副院長 医者でも患者さんのことがすべて分かるわけではありませんね。Dさんのように心に閃いてスイカを食べてみようと思った、そういう自分なりの感覚を信じるということも大切だと思います。Cさんも、薬を飲んでみたいと思うなら飲んでみてもいいと思います。ただそれで終わりではなく、飲んでみて自分の身体がどう変化していくかよくみていくことが大切です。飲みっぱなしではなくね。